

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web公開用）

申請者（ふりがな）	下田葉月（ しもだはづき ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	卒業生(2025年3月早稲田大学人間科学部卒業)
発表年月 または事業開催年月	2025年 9月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	2025年度日本建築学会大会（九州） 九州大学伊都キャンパス
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	下田葉月・溝口開人・佐藤将之
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	人口流出をきっかけとした公立学校づくりの変容に伴う教育移住の様相
発表の概要と成果（抄録を公開しているURLがある場合、「概要・成果」を記載した上で、URLを末尾に記してください。また、抄録PDFは別途ご提出ください。なお、抄録PDFはWeb上には公開されません。） 教育移住の様相、移住者や移住支援者の移住プロセスや教育移住先の学校や地域を調査対象とし、2024年度に調査を行った研究成果を2025年度日本建築学会大会にて報告した。 【発表の概要】 人口減少に加え、震災に伴う人口流出が各地で起きている。本研究では、人口流出への解決策として子育て世代の移住に注目し、震災に伴う学校設立と移住の関係性や、学校設立前後での地域変容を明らかにすることを目的としている。調査方法は、移住者を中心としたインタビューおよびアンケート調査を実施した。 調査により教育を理由とした移住が確認できた。またその過程では、教育や学校探しをきっかけにその自治体を選んでいくのが確認できた。移住前後での子どもの変化では、外遊びの時間が増えたり再び学校に行けるようになったりと、利点と捉えられる変化が見られ、教育移住としての成果に関する意見が多かった。さらに、学校の特色や狙いに応じたプログラムへの評価もあり、特色ある教育が移住後の移住者の子どもに影響を与えていることも確認できた。さらに、学校や地域について調査すると移住者が多様な活動への参画者となっていた。それが移住後の暮らしへのなじみを形成していることも確認でき、公立学校と地域が一体となった移住など活性化や地域変容が生まれている側面もあった。 特色ある教育が移住のきっかけとなり、自治体などその地域での暮らしに関することなど、それ以外の情報を収集している。さらに、移住者が評価していた移住後の地域へのなじみややすさが更なる移住のしやすさにつながる可能性があり検討が必要である。地域変容の解明については両校が設立間もなかったことから今後の課題ではあるが、移住者との関係も踏まえて持続的な仕組みが生まれることが期待できると研究を締め括った。 【発表の成果】 昨年度学部で調査をしていた時には教育移住について研究している方が少なく、学会発表ではより多くの他の機関で研究している方々からご意見をいただき、研究の不足している視点や調査観点の見直しについて改めて実感および認識する有意義な機会となった。また、調査対象に関心を持っている研究者の方々から、研究の詳細な内容について発表後に意見を聞きたいなどという交流が生まれた他、同じような教育移住に着目した研究を行う方々からご意見をいただけたことで、より自分の研究に対する関心と研究の意義を見つめ直す良い機会となった。学部卒業後も研究に関するフィールドワークを続けていきたいという自分の意思を改めて強く自覚できたかけがえのない時間であったと考える。	

※無断転載禁止